

遺伝子組換え台木を利用した接ぎ木

接ぎ木とは台木と穂木という異なる2つの植物体を人為的に接ぎ合わせる技術であり、果樹類や野菜類で一般的に利用されている。この時、例えば、特定の土壌病害抵抗性を有する遺伝子組換え台木を非遺伝子組換え品種に接ぎ木することで、穂木から収穫される農作物の品質等を変える事なく、土壌病害を回避出来る。

台木（又は穂木）に組み込まれた遺伝子が穂木（又は台木）に移動することはないが、特定のタンパク質やRNAの一部が師管を通じて伝達されることが最近分かってきている。

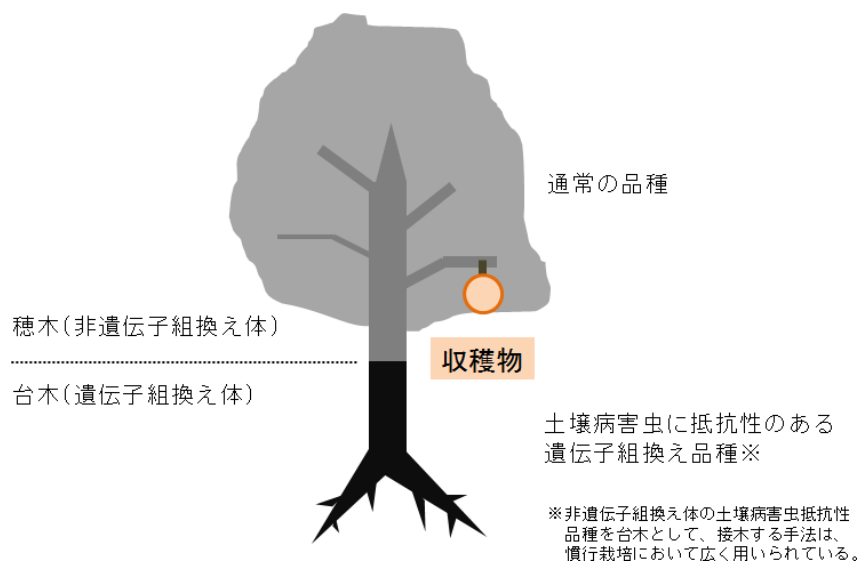


図 遺伝子組換え台木を利用した接ぎ木の概要